

令和7年度当初 チャレンジみらい予算

実施報告書

職員課・総合政策課・財政課

令和8年5月



1 チャレンジみらい予算について

チャレンジみらい予算とは
令和7年度実施事業

…4
…5

2 事業別報告書

個人
提案

デザイン思考で伝わる！ごみ分別広報事業	…7
みんなが主役！まちなか∞プロジェクト	…8
ガチャで巡る！越前海岸物語事業	…9
サポーター×ブースター＝ヒートアップ！フクイ！！	…10
もって歩くだけ！スマホ測量	…11
「農」力UP！ふくい園芸チャレンジ塾	…12
GPSデータ活用によるDX人流分析調査事業	…13
デザイン思考で西口広場のマナー改善事業	…14
走る広告！ふくチャリでイベントPR事業	…15
福井デザインマンホールフォトラリー	…16
じょうげすい かるたあそびでそだてるマイスター	…17

チーム
提案

クリエイトフクイプロジェクト-Z世代の福井愛が、福井の未来を創る-	…18
おひとりさまへ安心を！福井市版終活支援プロジェクト	…19

1 チャレンジみらい予算について

チャレンジみらい予算とは

若手職員がチャレンジできる場を創出し政策形成能力の向上を図るとともに、若手ならではの柔軟なアイディアに基づく事業の実施により、市民生活の向上や地域活性化などを目指す取組です。

提案の種類

	個人提案	チーム提案
概要	個人で自所属に関する事業を提案 	チームで自所属or他所属に関する事業を提案 
創設時期	令和元年度 (令和2年度当初予算)	令和4年度 (令和5年度当初予算)
採択事業数※	99	10

※令和7年度当初予算までの累計

これまでの主な事業

個人提案

認定路線図等公開システム構築事業

道路台帳等の図面情報をインターネット上に公開するシステム「ふくいマップ」を作成し、市民及び事業者等が窓口へ来庁する負担を減らすことで、「行かない窓口」の実現を図りました。



チーム提案

県民衛星「すいせん」活用事業

発生した自然災害に対して、県民衛星「すいせん」から得た衛星画像利用システムを活用することで、概況を把握し、調査時間の短縮、職員、所属間の連携強化等による復旧対応のスピードアップを図り、市民の安全確保につなげました。



令和7年度 実施事業

全13事業・総額23,806千円が予算化され、事業を実施しました。



個人提案

11事業 | 21,527千円

事業名	所属	事業費 (千円)
デザイン思考で伝わる！ゴミ分別広報事業	環境政策課	1,300
みんなが主役！まちなか∞プロジェクト	商工労政課	8,200
ガチャで巡る！越前海岸物語事業	観光振興課	1,100
サポーター×ブースター ＝ヒートアップ！フキイ！！	スポーツ課	1,000
持って歩くだけ！スマホ測量	林業水産課	951
「農」力UP！ふくい園芸チャレンジ塾	園芸センター	264
GPSデータ活用による DX人流分析調査事業	都市整備課	6,082
デザイン思考で西口広場のマナー改善事業	都市整備課	380
走る広告！ふくチャリでイベントPR事業	自転車利用推進課	750
福井デザインマンホールフォトラリー	経営管理課	500
じょうげすい かるたあそびで そだてるマイスター	上下水道 サービス課	1,000

チーム提案

2事業 | 2,279千円

事業名	所属	事業費 (千円)
クリエイティブプロジェクト -Z世代の福井愛が、福井の未来を創る-	広報プロモーション課	1,279
おひとりさまへ安心を！ 福井市版終活支援プロジェクト	地域包括ケア推進課	1,000

2 事業別報告書



デザイン思考で伝わる！ごみ分別広報事業

令和8年4月から、越廼・清水区域において開始する「プラスチック資源の一括回収」※について、市民が適切にごみ分別できるように周知を図るための広報物を作成しました。

※プラスチック製容器包装と製品プラスチックを併せて回収すること。

取組内容・成果

約20年ぶりの分別方法の変更？！

令和9年度の新ごみ処理施設の稼働に向けて、越廼・清水区域では令和8年度から、福井・美山区域では令和9年度から、ごみ分別方法の変更を予定しています。

伝わる広報を目指して

市民に伝わりやすく、伝わる広報となるように「デザイン思考」を活用して、市民にわかりやすく、多面的で、かつ、統一されたデザインによる広報を行います。

令和7年度は、越廼・清水区域へ啓発するためのチラシ・ポスターと冊子のデザインを制作しました。令和8年度以降も、今回決定したキーデザインをベースに、福井・美山区域での広報を図ります。



ごみ分別の冊子（変更前）



ごみ分別の冊子（変更後）



チラシ・ポスター（R7作成）

所感

- 令和6年度に総合政策課が実施した「デザイン思考による政策創造プロジェクト」の成果を活用し、広報の専門家であるデザイナーからの意見により、これまでのチラシと冊子の内容を見直すことができた。
- ごみ分別は、全世代への周知を図る必要があるため、デザイナーからの提案は大変参考になった。

担当者

環境政策課

勝木

環境政策課

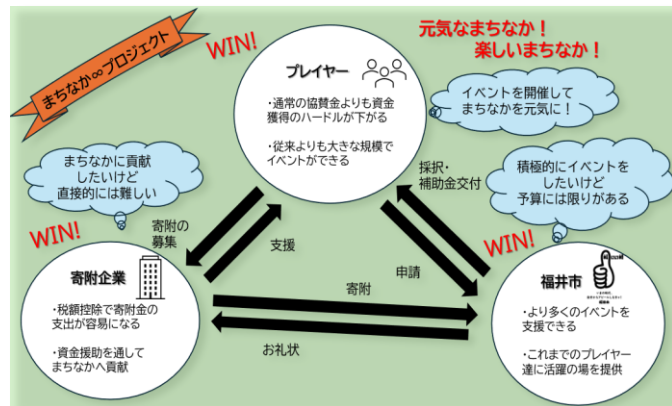
辻

みんなが主役！ まちなか∞プロジェクト

中心市街地でイベントを実施する事業者に対して、企業版ふるさと納税を財源とした補助金を交付することで、民間が主体となってまちなかの賑わいを生み出す流れを促進しました。

取組内容

- まちなかで開催予定のイベントを認定し、企業版ふるさと納税での寄附額を上限とした補助金を交付しました。
- 寄附を予定している企業への事業説明や感謝状の贈呈式を行いました。



▲プロジェクトのイメージ図

所感

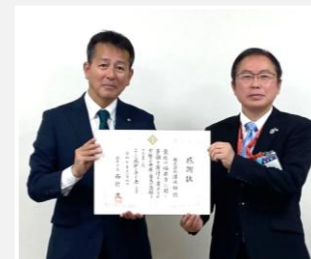
- これまでのイベント補助制度は、開催する事業者側の負担が大きかったものであったが、本制度を通じて、事業者がイベントを開催する際の負担軽減を図ることができた。
- 企業版ふるさと納税制度を活用することで、イベント来場者だけでなく、市外の寄附企業にもまちなかに関心を持ち、貢献いただける事業になったと感じる。

成果

- 本制度を活用して、9月に開催されたストリートカルチャーイベントへ補助金を交付しました。当日は、参加者を含め約1,000名が来場し、まちなかのにぎわい創出に繋がりました。
- 250万円の寄附をいただいた株式会社 清水組（本社：鯖江市）の清水代表取締役へ感謝状を贈呈しました。



▲イベントチラシ（左）と当日の様子



▲(株)清水組の清水代表取締役（左）

担当者

商工労政課

松田

ガチャで巡る！越前海岸物語事業

市中心部から越前海岸エリアへの誘客および同エリアでの周遊性を高めるため、越前海岸の魅力が詰まったガチャを市内3か所に設置し、“偶発的な出会い”という仕掛けをすることで、「地域」と「観光客」を繋ぐ新しい観光の形を創出しました。



取組内容

地元団体と

販促物は内製化

7/7～スタート

企画会議・素材収集

制作・設置

運用開始



クエスト達成者には
ノベルティをプレゼント！！



ノベルティには
海洋プラスチック
を活用！
海ゴミ問題について
考えるきっかけに！！

成果

- ① 当初予定の500個を大きく上回る**約750個**が完売しました。そのうち**22名**の熱心なチャレンジャーが実際に越前海岸へ足を運び、クエストにチャレンジしました！
- ② 多くのメディアに紹介されたことで、越前海岸の**魅力発信**につなげることができました。

7/16 FBC おじゃまっテレ

7/24 福井新聞

8/1 ふくチャンネル

サクッとINFO

8/16 中日新聞

8/24 日刊県民福井

8/30 福井テレビ ざわザワ高校

9/1 NHK ニュースザウルス福井



越前海岸の生き物を
モチーフにした
「限定ストラップ」



越前海岸の
風光明媚な自然を紹介した
「うみどころカード」



越前海岸の
個性豊かな人を紹介した
「うみびとカード」



裏面はクエスト形式にして
実際に訪れなくなる工夫を！

一部を穴埋め形式にして
会話したくなる工夫を！



所感

- 企画を通じて、地元団体の方々とコミュニケーションを図ったり、地域の魅力を探し回ったりする中で、自分自身も越前海岸の良さを再発見した。また、微力ながら地域の活性化につながった。
- 実際にカードを持って越前海岸に足を運んだ人は多くはなかったが、ガチャを福井駅周辺に設置することで、まちなかエリアにしながら、少し離れた“越前海岸”の魅力を県内外の観光客の方々に届けることができた。

担当者

観光振興課

武田

サポーター×ブースター＝ヒートアップ！フクイ！！

市民が地元スポーツチーム「福井ブローウィンズ」「福井ユナイテッドF C」を愛し応援したくなるイベント等を、各チームと共同で開催し、スポーツを核とした地域活性化や交流人口の拡大を図りました。

取組内容

【福井ブローウィンズ】

- ① 5/4（日）、5（月祝）パブリックビューイングinハピテラス開催
- ② 11/12（水）～「ふくい地域PV推進プロジェクト」始動

【福井ユナイテッドF C】

- ③ 9/6（土）福井市ホームタウンデー開催



▲①パブリックビューイングinハピテラスの様子



▲③福井市ホームタウンデーの様子

成果

- ① 5/4（日）、5（月祝）に開催したパブリックビューイングinハピテラスでは、二日間で**1,000名を超える来場者**を記録しました。
- ② 11/12（水）から、市全体での地元プロスポーツ応援文化の育成や、地域コミュニティの活性化を目的として、**北陸コカ・コーラボトリング、福井ブローウィンズと協働**し、市内の市民団体によるパブリックビューイング開催を支援する「ふくい地域PV推進プロジェクト」を始動しました。25-26シーズンを通じ、市内では**合計30回のパブリックビューイングが開催**され、応援文化醸成および地域コミュニティの再生に大きく寄与しました。
- ③ 9/6（土）に開催した「福井市ホームタウンデー」には、**シーズン最多となる1,919名が来場**し、**市民500名の無料招待**に加え、音楽やダンスを楽しめるステージイベント、子ども向けの体験型コンテンツ、福井の食を味わえるキッチンカーなど、多彩なエンターテインメントが並び、会場は大いににぎわいました。

所感

- 幅広い世代の市民の方々が集まり、地元スポーツチームを応援しながら交流を深める姿が見られ、スポーツを通じた繋がりやの広がりを実感する機会となった。
- 行政と地元スポーツチームが協働して進めてきた取組が、地域に着実に根付き始めていることを強く感じる。市民からは、「行政の取組を応援している」「行政がスポーツチーム応援活動をしてくれてうれしい」といった声が多く寄せられ、活動への期待と温かい後押しを実感することができた。

- 行政と地元スポーツチームとの関係もこれまで以上に良好となり、連携が一段と深まっていることを実感している。チーム側も積極的にリソースを提供してくださるようになり、より密な協力体制が築かれつつある。

担当者

スポーツ課

松宮

もって歩くだけ！スマホ測量

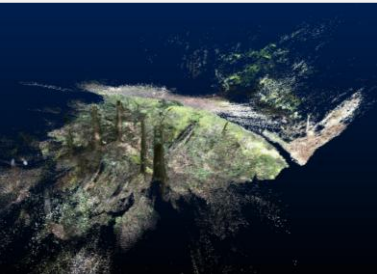
高精度なスマートフォン測量ツールを導入することで、業務の合理化や災害復旧のさらなるスピードアップを図りました。

取組内容

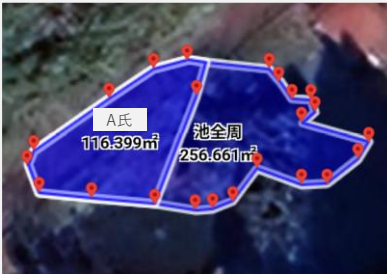
スマートフォンに取り付けるだけで観測点の位置をリアルタイムに求めることができる衛星測位システム機器（LRTK Phone）を導入しました。

● 活用例

3D点群測量



面積測量



構造物の現況を記録管理



▲LRTK Phone

成果

① 測量費の削減

職員による測量が可能となり、
委託費を**約85万円/件削減！**
・R7年度活用実績：4件(越前西部四号線、越前西部3号線外)

測量業務委託費の実績		
発注年度	件数(件)	測量費(万円)
R4	5	416
R5	11	844
R6	4	443

一件あたり(平均)：85万円

② 作業時間、作業労力の削減

ポール横断測量



約20分×3人＝
60分

1箇所あたり
50分削減！

LRTK Phone



約10分×1人＝10分

工程の比較

測量業務委託(二枚田幹線)	LRTKを使用(越前西部四号線)
(工期)R7.5.14～6.13⇒約4週間	測定1日+データ編集1週間⇒約1週間

③ 事業工程の最適化

工程が**約3週間短縮！**

所感

● 新機器の導入によって、費用面・時間面の両方で効率化を行えたと考えている。

● このような実績が他課でも業務工程の見直しを行うきっかけとなり、庁内全体のDX推進に続いてほしいと思う。

担当者

林業水産課
林業水産課

池邑
小林

公園課 石川

「農」力UP！ふくい園芸チャレンジ塾

農業の多様な担い手を育成するため、園芸（野菜、切花、果物）の直売所等での販売を志す市民や、既に農家の方で栽培技術と販売力の向上を目指す方等を対象に、園芸技術を実践的に学べる場として「栽培力育成塾」と「販売力育成塾」を開講しました。

取組内容

○栽培力育成塾

野菜、切花、果樹コースを設立し、園芸農業の基本的な知識や各作物の栽培技術について、座学と現場実習による年間講習を実施しました。



○販売力育成塾

農業経営の基本知識や売り場に設置する効果的なPOP作成の方法論についての講習会、越前ふくいマルシェでの模擬販売を実施しました。



成果

○令和7年度塾生数

野菜コース（全17回） 5名
切花コース（全13回） 1名
果樹コース（全10回） 5名
販売力育成塾（全3回） 11名

○受講生からの声

- 基本を一から学ぶことで、気を付けなければならないポイントが整理され、的確に栽培管理ができるようになった。
- ただ栽培するだけでなく、直売所で売り切れる戦略も身につけることができた。



▲越前ふくいマルシェでの模擬販売の様子

所感

- 講習が一方的な指導だけにとどまらず、栽培に関する疑問や問題点、販売の課題など受講生同士での積極的な情報交換の場としても活用していただけたのがよかった。
- 受講生が実際に直売所で販売し、手ごたえを感じていた。来年度以降も継続して直売所農家の育成につなげたい。
- 実際の作業を一緒にすることで、言葉だけでは理解しにくいことも経験を通して身につけてもらった。
- 受講生から質問されたことを調べたり、教えることで職員も勉強になった。
- 園芸センターで蓄積してきたデータや経験を活かして、品種選びや栽培のコツなどを伝えることができ、やりがいを感じた。

担当者

園芸センター
園芸センター

浪花
小林

園芸センター
園芸センター

安井
福田

農政企画課

石井

GPSデータ活用によるDX人流分析調査事業

福井駅周辺を中心とした更なるにぎわい創出に向け、今後の施策立案の基礎資料として活用するため、北陸新幹線福井開業後の人流の変化について、携帯電話のGPSデータを活用した人流分析ツールを用い、調査・分析を行いました。

取組内容

- 携帯電話のGPSデータを活用した人流分析ツールを用い、福井駅周辺を中心に新幹線開業前後の変化について人流分析調査を実施しました。
- まちなかで行われている大規模イベントについて、人流の変化を調査しました。
- 昨年度まで手動で実施していた歩行者通行量調査を、分析ツールで代替しました。

“定量”分析



来訪者の人数・属性などの分析

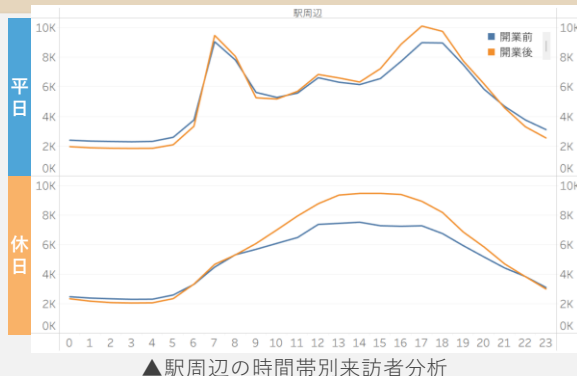
“定性”分析



移動軌跡を“動画調”で分析

成果

- 新幹線開業により、福井駅周辺エリアに滞在する人が**休日の11～18時に20%増加**したという結果が出ました。
- イベント時においても、まちなかで実施された**福井フェニックス祭り**（YOSAKOIイッチョライ）の電車通りエリアにおいて、**通常時の約2倍の人出**が確認されるなど、平常時とは異なる有意なデータを得ることができました。
- GPSデータを基に、過去1年間に福井駅周辺を来訪した記録のある人に対しアンケートをとり、2,113人の方から福井駅周辺のにぎわいに対して回答を得ることができました。
- 手動で実施していた歩行者通行量調査を人流分析ツールで代替し、通行量データを得ることができました。



所感

- GPSデータを活用した人流分析ツールを活用することにより、肌感覚でしか分らなかった、駅周辺のにぎわいを数値化することができたため、今後の施策立案に生かしていきたい。
- これまで手動で実施していた通行量調査は、調査日数が限られ、天候やその日開催されるイベントにより、調査結果に影響し、得られるデータに振れ幅があったが、GPSデータを活用すれば、調査日数の制約がなく、課題が解消されることが分かった。

担当者

都市整備課

吉川

デザイン思考で西口広場のマナー改善事業

自転車押し歩き推奨区域である福井駅の自由通路において、ナッジやデザイン思考を活用した自転車の押し歩き推進案について考案・効果検証等を実施し、安全な歩行者空間の創出を目指しました。

取組内容

福井大学と連携して事業に取り組みました。

【社会実験の様子】

- ① 足音リズムナッジ
- ② ポスター看板ナッジ
- ③ 足跡・タイヤ痕ナッジ

- ・現地調査
- ・ワークショップ
- ・アイデア出し
- ・社会実験 など



▲ワークショップの様子

上記①～③と「3案全て実施」の計4案について、有効性検証のため社会実験を実施しました。（4日間）



▲②ポスター看板ナッジ



▲③足跡・タイヤ痕ナッジ



▲実験時のマスコミ取材

所感

- 福井市ナッジユニット協力のもと、ナッジの知見が深い福井大学の学生らと連携して事業を進めたことにより、社会実験等において多様な意見やアイデアを取り入れることができ、非常に有意義な取り組みとなった。

成果

【社会実験結果】

- ・ ①～③全て実施日の押し歩き率は**83%**となり、最も大きな自転車降車の効果がみられました。
- ・ 自転車を押し歩きしている人物を大きく掲出した**②看板の設置のみ**の場合も、**77%**と十分な効果がみられました。

実施内容	押しチャリ率
(通常日)	67%
①足音	64%
②看板	77%
③足跡	71%
①～③全て	83%



押し歩き人物のイラスト看板を
令和7年度末に自由通路へ設置しました！



担当者

都市整備課
広報プロモーション課

山田
小寺

総合政策課
総合政策課

梅田
細江

走る広告！ふくチャリでイベントPR事業

市のイベントやお知らせの新たな広報手段として、シェアサイクル「ふくチャリ」のドレスガードにデザイン広告を掲出しました。また、参加者が「ふくチャリ」を使って走るサイクリングツアーを実施し、「ふくチャリ」の更なる利用促進につながる取り組みをしました。

取組内容

主に以下のことに取り組みました。

- 市役所内でドレスガード掲載を希望するイベント案件を募集
- 掲載案件を選定し、イベント開催の時期に合わせてデザイン広告を掲出し、イベントPRを実施
- サイクリングツアー「ふくチャリでGoGo！」を実施

デザイン広告



チラムネ



ふくいMaaS

広告を貼ったドレスガード



サイクリングツアー



所感

- ドレスガードを活用し、まちなかで目につきやすい場所で広告を行うことは、特にアクティブな層の人に対しての働きかけとして有効であると感じた。
- また、広告内容を知らなかった人に対しても、市の関連する取り組みを自然と知ってもらうきっかけになると感じた。
- ふくチャリを使ったサイクリングツアーは、家族連れの参加者が多かった。参加者にとって、気軽に自転車に乗ることや少し遠い観光地に足を運ぶ機会になったと思う。

成果

1. ドレスガードへのデザイン広告掲出

掲出デザイン数：2件 掲出自転車台数：デザイン毎に30台

- 千歳くんはラムネ瓶のなか（掲出期間：R7.8.29～R7.10.31）
アニメ全国放送開始をPRするとともに、利用者がキャラクターデザイン付自転車で、アニメで登場する聖地を走ることができました。
- ふくいMaaSアプリ（掲出期間：R7.11.1～R8.3.31）
まちなかで市民や観光客にMaaSアプリの利便性を伝えたり、手軽にアプリをダウンロードできる機会を増やすことができました。

2. サイクリングツアー「ふくチャリでGoGo！」

開催日：6月1日（日） 参加者：16人

市内外の方が参加し、シェアサイクルの利用推進やサイクリングロード、市内観光地のPRができました。

担当者

自転車利用推進課

毛利

自転車利用推進課

青木

福井デザインマンホールフォトラリー

下水道への興味・関心を高め、理解を深めてもらうとともに、福井市の魅力を発見してもらうことを目的として、デザインマンホールの写真をInstagramに投稿した方の中から、抽選で各期間50名に限定グッズセットをプレゼントするイベントを実施しました。

取組内容

夏・秋 2回実施

グッズ作成

アクリルコースター（6種）、トートバック（2種）を作成。



広報

チラシ、HP、LINE、Instagram、投げ込み等の広報活動を行う。



抽選

応募された方の中から抽選を行い、当選者（50名）に連絡。



グッズ発送

当選者へグッズを発送。

成果

○投稿数 162件

- ・第1回投稿期間（R7年7月1日～8月31日）：93件
- ・第2回投稿期間（R7年10月1日～11月30日）：69件

○新聞への掲載 2件

- ・日本下水道新聞（R7年6月18日）
- ・福井新聞（R7年7月31日）

○Instagramのフォロワー数 290人（R8年3月末時点）

本イベントの実施にあたり、福井市上下水道局の公式Instagramアカウントを開設しました。公式アカウントのフォローを本イベントの参加条件としたことで、今後の情報発信のためのフォロワーを獲得することができました。

所感

- たくさんの方にご参加いただき、普段の生活の中であまり意識したことのない下水道を知っていただくきっかけをつくることができました。
- 本イベントの参加者から、「デザインマンホールを巡りながら、福井市の魅力を再発見できた」という声をいただき、大きなやりがいを感じた。

- 今後も、本イベントの実施にあたり開設した福井市上下水道局の公式Instagramアカウントを使用して、積極的な情報発信に努めたい。

担当者

経営管理課

菅波

じょうげすい かるたあそびでそだてるマイスター

子どもたちが楽しみながら上下水道の役割や大切さを学べる教材としてオリジナルカルタを制作し、家庭で気軽に遊びながら上下水道への理解と関心を深められるよう、市内の対象児童に配布しました。

取組内容

① カルタの企画・制作

- ・若手職員から読み文を募集
- ・上下水道展で試作品体験会を実施し、改善点を反映

② 情報発信・周知

- ・広報誌「上下水道のミカタ」やSNSでの情報発信
- ・報道機関での紹介

③ 児童への配布・紹介

- ・小学4年生へ配布し、窓口でも希望者に配布
- ・小学校で出前講座開催



成果

① カルタの企画・制作

- ▶ 職員から多様な読み文案が集まり、内容の幅が広がったほか、体験会の意見を反映することで、より分かりやすい仕上がりとなりました。

② 情報発信・周知

- 福井新聞（9/5、9/12）／福井テレビ（9/10）／日刊県民福井（9/13）
- ▶ 市民が上下水道を改めて意識する契機となりました。

③ 児童への配布・紹介

- 配布部数：市内小学4年生2,231部、窓口50部
- ▶ 対象児童全員に配布したことにより、家庭でも気軽に上下水道について考える機会づくりにつながりました。



所感

- カルタ制作にあたっては、読み札の内容をわかりやすく絵札に表現することが難しくデザインの調整に苦労したが、試作品の体験会で得た意見なども踏まえ、細かな修正を重ねたことで、啓発教材としての完成度を高めることができた。
- 上下水道展や出前講座ではカルタで大いに盛り上がり、難しい内容でも遊びの形にすることで、児童の興味を引きやすいことを改めて実感した。
- 今後も今回の気づきを参考にしながら、上下水道と暮らしのつながりを意識してもらえようような啓発の工夫を、できるところから続けていきたい。

担当者

上下水道サービス課
上下水道サービス課

服部
前川

資産税課

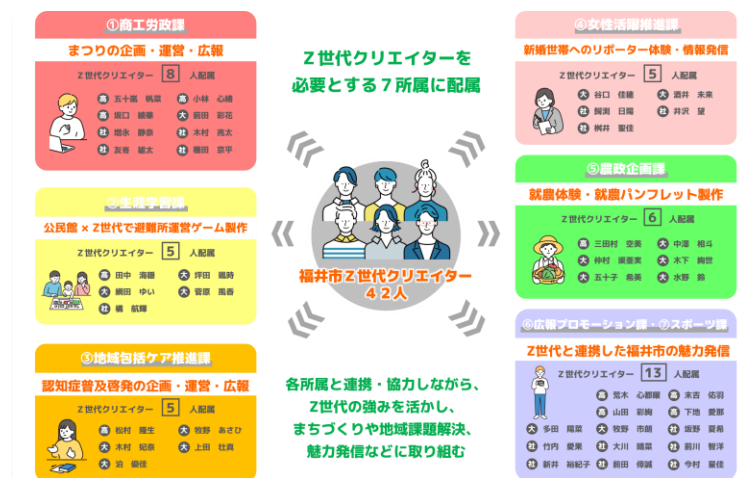
安久

クリエイティブプロジェクト -Z世代の福井愛が、福井の未来を創る-

市政に熱い想いを持つ若者と、若者の力を必要としている各所属を橋渡しし、両者が協力してまちづくりや地域課題解決に取り組むとともに、活動を通じて参加した若者自身のシビックプライドを醸成することを目的として事業を実施しました。

取組内容

Z世代の力を必要とする7所属に42名の若者を配属し、各所属と若者が連携、協力しながら、Z世代の強みを活かし様々な事業に取り組みました。



▲事業のイメージ



▲活動の様子

成果

- 本プロジェクト内で投稿したTikTok動画は累計**20万回以上の再生**を記録しました。
- また、新聞には年度を通じて**11件の記事が掲載**され、福井市と若者が協力して様々な取り組みを行う姿勢を広く伝えることができました。
- 2月14日（土）にはハピリンホールにて成果発表会を開催しました。Z世代の若者自ら、市と協働して取り組んだ内容を来場者に発表し、当日は**約150名の参加**がありました。



▲成果発表会の様子

所感

- 市政に熱い想いを持つ若者の意見を取り入れながら、各所属と連携し、年間を通じて連携事業を進めることができた。
- 参加した若者からも「参加して初めて本当に地域に向き合えた」「初めて”市役所”の仕様の内容や面白さを知れた」といった好意的な意見が聞かれ、意欲的に活動に取り組んでもらう環境を整えることができたと感じた。
- 今年度の活動を通じて得た経験や若者の声を次年度以降の事業内容に反映させ、より充実した活動内容となるよう検討していきたい。

担当者

広報プロモーション課

山本

スポーツ課
秘書課

松宮
前川

生涯学習課
農政企画課

山田
石塚

おひとりさまへ安心を！福井市版終活支援プロジェクト

身寄りがない高齢者であっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して望む最期を迎えることができる環境をつくるため、先進地視察や関係者を集めた終活意見交換会、終活普及啓発イベントを開催しました。

取組内容

①先進地視察

- 神奈川県大和市
 - ・全国初、終活支援条例制定
 - ・終活専門常勤職員を配置
 - ・手厚い遺贈寄付支援事業
- 神奈川県横須賀市
 - ・全国初、終活情報登録事業
 - ・終活専門常勤職員を配置
 - ・葬儀代の事前納付事業
- 東京都豊島区
 - ・身元保証・死後事務事業
 - ・社協に相談窓口設置



②終活意見交換会

- 参加者
 - 葬儀会社、遺品整理業者、不動産会社、弁護士、司法書士、高齢者施設など約50人
- 内容
 - ・終活に関する課題共有
 - ・必要な支援策の検討



③普及啓発イベント

- 日時：1月17日(土)
- 場所：ベルあじさいホール
- 内容
 - ・関連企業によるブース出展
 - ・エンディングノートの書き方講座
 - ・メモリアルフォト撮影会
 - ・専門職相談会



成果

①先進地視察

- ・本市での施策に応用可能な制度設計や運営手法に関する具体的な知見を得ることができました。

②終活意見交換会 (NHK・FBC・福井新聞・日刊県民福井 放送及び掲載)

- ・官民が継続して連携し『終活』を普及啓発することの重要性を認識できたほか、関係機関が連携し対応できるネットワークの必要性を共有できました。

③普及啓発イベント (FBC・福井新聞・日刊県民福井 放送及び掲載)

- ・来場者数 → 約250人
- ・エンディングノートの書き方講座受講者数 → 約 70人
- ・メモリアルフォト撮影会参加者数 → 約 50人

所感

- 先進自治体を視察し、行政が積極的に終活の支援を行うことで、空き家問題や相続など後々発生するであろう問題をあらかじめ予防することが可能であることを学んだ。
- 終活意見交換会では、行政単独では把握しにくい現場課題や市民ニーズを整理でき、終活支援における行政の役割と民間・関係団体との役割を明確化することができた。
- 得られた知見を反映し、普及啓発イベントを企画・実施し、終活に対する関心喚起と具体的な相談行動の促進を図ることができた。
- 市民の終活に対する意識が高かったため、次年度は今年度の取り組みに加えて『終活出前講座』を開催し、安心して将来に備えられるよう支援を行う。

担当者

地域包括ケア推進課
地域包括ケア推進課

石田
岩井

地域包括ケア推進課
生活支援課

中嶋
高木

生活支援課
福祉総合相談室

奥田
岡島